

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山市立中央小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒930-0052

富山市五番町4番35号

E-mail toyama-chuo-es@tym.ed.jp

Website www.toyama-chuo-e.tym.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 200名 女子 181名 合計 381名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自然にやさしい、人にやさしい、地球にやさしい」を活動テーマとして、ESDの実践を通して7つの能力・態度(批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力・コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度・つながりを尊重する態度・進んで参加する態度)の育成を目標とした。

具体的には、①地域の文化に係わる学習、②福祉に係わる学習、③食に関する学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 地域の文化に係わる学習

3年生の子供たちは、校区にある古くから続く店、寺、自然や新しくできた施設や公共交通等を調べ、未来に残していきたいものを考える学習を行った。校区の人に取材をして、今まで大切にされてきた由来や地域の人々の思いを知った。また、富山市が進めているまちづくりの政策を知り、未来の富山市について考えた。学習を通して、子供たちは校区や富山市のことについて新しく学んだことがあり、一層愛着をもつことができた。

② 福祉に係わる学習

4年生の子供たちは、老人福祉施設を訪問し、施設のお年寄りと交流した。始めは、自分からお年寄りに話しかけたり、会話を楽しんだりすることができなかったが、交流を重ねる度に相手に合わせた活動ができるようになった。この学習を通して、お年寄りや介護士と交流し、コミュニケーションの難しさや楽しさ、大切さに気付いた。また、自分が笑顔で接すると相手も笑顔になることも気付いた。人に対する優しさを友達や家族、学校全体へ広げようと考えた。

③ 食に係わる学習

5年生の子供たちは、有機農法で米作りをしている農家の協力の下、種籾まき、田植え、草取り、稲刈りの稲作体験をした。体験だけでなく、米作りの工夫や努力、有機農法にこだわる思い等も学習した。さらに、自分の食生活を調べて見直したり、日本の食問題について解決策を考えたりした。この学習を通して、食の安心・安全について考えたり、食料自給率向上のために自分ができることに取り組んだりして、「食」についての関心が高まった。

④ 国際理解に係わる学習

6年生の子供たちは、ごみ捨て場で生活している子供や路上で暮らす子供等、世界の子供たちの現状を知り、自分にできることはないかという思いをもち、実行するという活動を行った。子供たちが学校に通い、読み書きができるように取り組む世界寺子屋運動や、古着や使用済み切手等を回収する企業やNPOの団体に協力した。この活動を通して、物を送るだけでなく、自分の生活の豊かさと親の愛情に感謝し生きることや世界の子供たちだけでなく自分の周りにいる身近な人にも優しさを差し伸べることの大切さを学んだ。



地域の方から竜の水の話を聴く子供たち



お年寄りにダンスを披露する子供たち



有機農法で育てた稲を刈る子供たち



PTA バザーで古着回収をする子供たち

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

3年 富山市ホームページ ・くしとだんごのまちづくり ・人と環境に優しいまち ・シティプロモーション ・ガラスの街づくり
5年 社会科教科書 東京書籍 新しい社会
6年 道徳副読本 文溪堂 今君たちに伝えたいこと アジアの貧しさの中で暮らす子供たちから学んだこと

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間だけでなく、各教科においても持続可能な社会づくりの構成概念やＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を育むために、ＥＳＤカレンダーを作成している。ＥＳＤカレンダーには、単元に含まれる持続可能な社会づくりの構成概念とＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を記入し、教師が意識をして授業をしている。ＥＳＤカレンダーは、年度初めに学年で見直しをして、指導の改善に役立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「自然にやさしい 人にやさしい 地球にやさしい」という子供たちにも分かりやすいＥＳＤのテーマを設けている。校内研修では、ＥＳＤ主任を置き、低・中・高学年別に部会を組織して行っている。一年間に一人一回、公開授業を行い、授業の後は事後研修会を開き、授業改善、指導法の工夫に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

以前作成していたＥＳＤカレンダーには、持続可能な社会づくりの構成概念とＥＳＤの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を育むことのできる単元を全て書き込んでいたが、実際には使えないＥＳＤカレンダーになっていた。そこで、全学年で育てる能力・態度と低・中・高学年毎に主に育てる能力・態度を決め、それに関わる単元のみをＥＳＤカレンダーに書くようにし、使いやすいものにした。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

年に１回、ＥＳＤ研究発表会を行い、他校の教員に授業を公開し協議を行っている。また、富山県内のユネスコスクールが集まって活動内容や学んだことを発表するＥＳＤ富山シンポジウムに参加し、子供たちが互いの活動や学びを聞いたり、感想や意見を述べたりして交流している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ＥＳＤ活動支援センター、ＥＳＤコンソーシアムとの連携など）（２００字程度） ※チェック事項 2-3 に対応

一般社団法人大学コンソーシアム石川、富山ＥＳＤ講座委員会主催のＥＳＤ富山シンポジウム（富山県内のユネスコスクールの活動発表交流会）に毎年参加している。富山ユネスコ協会主催の行事（平和の鐘を鳴らそう運動）に参加したり、６年生児童が世界寺子屋運動について富山ユネスコ協会の方から話を聞き、書きそんじはがきを集めて協力したりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

ＥＳＤ富山シンポジウム（富山県内のユネスコスクールの活動発表交流会）に参加している。参加校は、活動内容や活動から学んだこと、考えたことを発表したり、他校の発表を聞いて質問や感想を述べたりして、互いの活動を知り、よさを認め合っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度のコミュニケーションを行う力を育てるために、1～6年生の縦割りグループを作り、生活科や総合的な学習の時間の活動内容と活動から学んだことをグループの人に伝えたり、質問や感想を述べたりする「中央っ子フェスティバル」を行っている。毎年行っているので、子供たちは、相手のことを考え聞きやすい音量・速さ・間で話したり、話し手の思いや考えを受け止めて自分の感想を述べたりすることができるようになっている。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1・2年

中央小学校のESDのテーマ「自然にやさしい 人にやさしい 地球にやさしい」を意識しながら、生活科の学習を行う。

3年

校区の暮らしを支えている道路や信号、路面電車等様々な公共物を調べ、設置されている意図や市役所の人々の考えを理解し、自分も「まち」に興味をもち、これからの「まち」の未来を考えて発信する。

4年

高齢者との交流を通して、相手の立場を理解し、思いやりをもって触れ合うことで、互いが笑顔になることに気付き、自分の周りにいる人々との関わり方も考え、実践していく。

5年

稲作体験を通して、米作りの工夫や苦勞を知り、米に込められた思いを感じ取ったり、食の大切さに気付いたりする。社会科や稲作体験から学習したことと自分の食生活をつないで現在の食料事情について考える。

6年

世界の子供たちの現状を知り、子供たちの暮らしの背景を調べたり自分にできることがあるか考えたりする。そして、自分にできることを計画、実践し、自分の生活や身近な人との関わり方を見直す。